

■（４４）忘れられない、忘れてはいけない

「新聞を教育に（N I E）」に取り組む先生たちの勉強会で震災報道について問われた。「受け止め方に地域差は？」「被災地を忘れられないためにはどうしたらいいのか？」。確かに西日本では、今回の震災報道は激減している。特に過疎地の被害について、どれだけしっかり伝えられているだろうか。ある先生は阪神大震災でさえ危ういと心配していた。

震災から５ヶ月を迎えた８月。平和を考える終戦の夏でもある。岩手県釜石市は６６年前、大きな製鉄所があった関係で、米軍の艦砲射撃を受け、多くの犠牲が出た。戦災の記憶を風化させてはいけないと、戦災資料館が１年前に開館したばかりだった。そこも津波に襲われ、貴重な資料はすっかり失われてしまった。私ら新聞は記念日や節目を大切にしている。毎月１１日には震災特集を組んで被害や復興の状況を伝え続ける。さらに、今月は、終戦記念日や原爆の日、震災の初盆。いつもに増して大事な「夏」となっている。

福岡で育った子供のころ、長崎原爆の日は夏休みの登校日で平和学習があった。忘れてはいけないことを踏ん張って伝え続ける。その使命は新聞も教師も同じなのだろう。（山）